

風水害から身を守る3つのポイント



過去10年間(2010年から2019年まで)の平均で年間25個の台風が発生しています。台風が接近・上陸したときだけでなく、前線が停滞することで大雨が降り、道路の冠水や河川が氾濫することもあります。事前に備えることで被害を最小限にしましょう。

1 台風や大雨の前に 周囲の危険性を知る

これまで経験したことのないような豪雨による災害が増えています。まずは、土砂災害が起こりやすい、浸水しやすいのはどんな場所か、自宅や職場、学校の周辺などの危険性を認識し、心構えをしましょう。

●危険性を知るには

各自治体で作成しているハザードマップを確認しましょう。ウェブサイトで閲覧できる他、各市役所・町役場で配布しています。



2 雨が降り始めたら 避難に関する情報を入手する

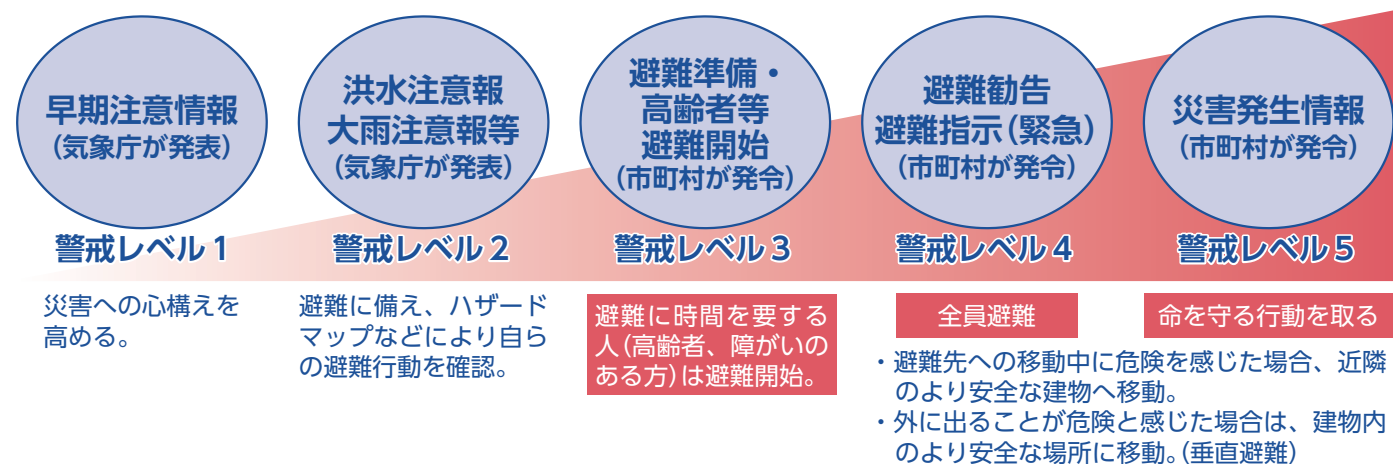


大雨の際、各自治体から、災害の発生危険度に応じた3種類の情報を発信します。家族構成や避難先など各自の状況に応じて、避難のタイミングをあらかじめ決めておくことが大切です。

●避難情報を知るには

データ放送を受信できるテレビの場合、リモコンのdボタンを押せば、いつでも地域の気象情報や防災情報を見ることができます。

その他、ラジオやスマートフォンなどを活用して、自ら積極的に情報を入手しましょう。



3 危険が迫る前に 早めの避難行動を

●「今まで大丈夫だったから今回も大丈夫」は絶対ダメ！

人は、自分が危機的状況にあっても避難行動を取れない場合があります。その要因の一つは、危険や脅威を軽視したり、事態を楽観的に見てしまい、自分だけは大丈夫と錯覚する心理状態になるからです。このような心理状態に誰もがなる可能性があることを理解し、適切な避難行動が取れるようにしましょう。

●間に合わないときは「垂直避難」

土砂災害の多くは木造の1階部分で被災しています。緊急の場合は、近くの頑丈な建物や自宅の2階以上に避難する「垂直避難」も有効です。外に出ることで、かえって危険が及ぶような場合は、家の中の少しでも安全な場所に避難してください。

ただし、木造住宅は土砂災害によって全壊する恐れがありますので、早めの避難を心がけましょう。

※昨年は東日本台風(台風第19号)により危険物や毒劇物の流出事故が多発しました。これらを取扱う各事業所においては、風水害への事前対策を行いましょう。